

ウトロ海域における取組の進捗状況について

1. 5月18日に洋上デコイ1基を設置した。
2. 5月30日に知床国立公園ウトロ海域における海鳥の保護と持続可能な海域利用検討会を開催し、以下について検討・合意を得た。
 - ①利用者動向調査の本格実施
 - ②ケイマフリのデコイを用いたPR
 - ③会議名称の変更

1. 洋上デコイの設置について

5月18日にここ数年繁殖が確認されていなかったコケシ岩付近の湾内に、洋上デコイを1基設置した。6月9日の調査報告によると、デコイ付近の断崖の隙間にエサを啜って入っていくケイマフリが確認されている。デコイを設置する前にすでに抱卵していた可能性があるが、現在育雛期に入っている可能性が高い。

2. 合意・実施内容について

①利用者動向調査の本格実施

昨年度試験的に実施した利用動向調査が、海鳥の保護と利用のマーケティングとして活用できると判断されたことから、今年度は6月から8月の期間で本格的な利用者動向調査を実施する。

②ケイマフリのデコイを用いたPR

当初今年度の取り組みとして、「エコツアー商品のブランド化」について提起したが、検討会において、現段階で商品化を検討するよりも、まずはケイマフリの保護にむけて、利用者に対して、その価値の説明を十分に行うべきとの議論がなされた。そのため、今年度は鳥類調査の結果の共有、自然解説アナウンス、デコイの貸出し、及び広報用デコイの新規制作等の情報発信を重点的に実施する。そのため、研修者と事業者との情報交換会を6月27日に開催する予定。

その他、ミニ出前講座の開催や、小型観光船協会では、独自にケイマフリ募金の実施を計画中。

③会議名称の変更

知床世界遺産科学委員会適正利用・エコツーリズム検討会議の部会としての位置づけを明確化するため、会議名称を「ウトロ海域部会」とすることとした。

3. 今年度の取組とスケジュール

- ・ケイマフリ等海鳥の生息・生態調査の実施（平成23年5月～10月）
- ・利用者動向調査の実施（平成23年6月～9月）
- ・第2回検討会では、今年度の調査結果をふまえて来年度の計画を策定する（平成23年10月頃）

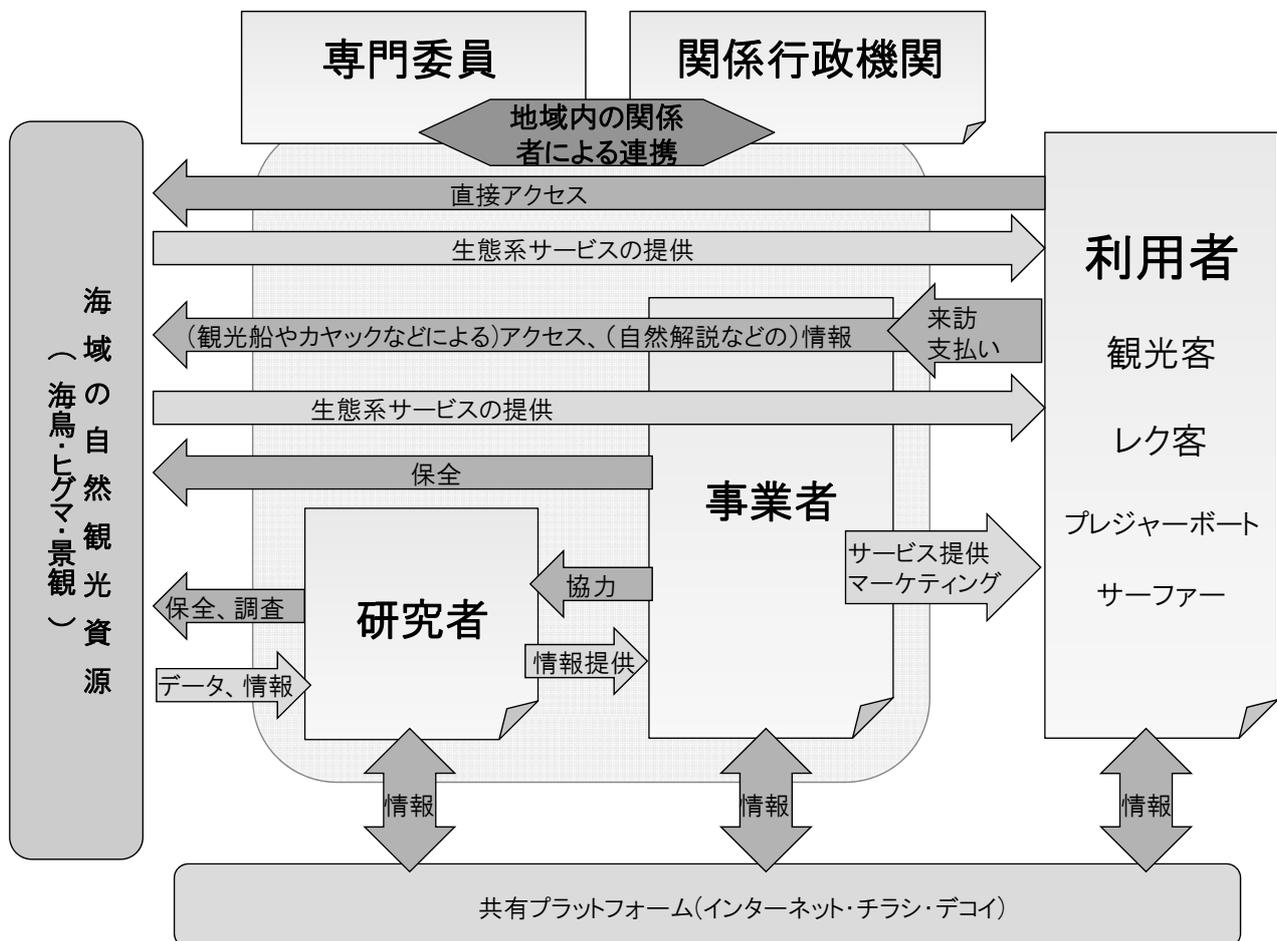
ウトロ海域部会の目的

参考資料

- ・ 世界遺産地域の海域の価値を高める
- ・ エコツーリズム戦略の策定を視野に入れたモデルケース
 - ① 多様な野生生物を含む原生的な自然環境を後世に引き継ぐ
 - ② 利用者により良い自然体験を提供
 - ③ 地域経済の発展の促進



- ウトロ海域を利用する人間と海鳥の双方にとって好ましい状態の創出 (Win-Winの関係)
- ウトロ海域を利用する全ての関係者それぞれにとって好ましい状態の創出 (Win-Win-Win-...の関係)



平成23年度実施計画

興味を持つ・知ってもらう

- ・ ケイマフリなどの海鳥に興味を持つ
- ・ 知床の海域のおもしろさを伝える

<利用者に対して>

- ・ 利用施設での展示
- ・ 船内アナウンスなどでの紹介
- ・ 取り組み紹介(調査結果などを含む)
- ・ チラシの配布
- ・ ホームページの作成
- ・ ケイマフリなど希少な生物や海域自然環境の価値の説明

<実施主体として>

- ・ 利用者へのアンケート実施
- ・ みんなで簡易な調査を行う(地図にマーク、写真による記録など)
- ・ 詳しいモニタリング調査

<環境への配慮>

- ・ ケイマフリの保護・保全に向けた連携体制の構築
- ・ デコイの設置
- ・ より好ましい利用形態の検討(例えば、ゾーニングや新たなルート開発など)

ウトロ海域部会の年次スケジュール

	平成22年度	平成23年度	平成24年度
自然観光資源の価値の向上			
ケイマフリ繁殖地の再生実験	デコイ製作	デコイ設置 誘引効果モニタリング	誘引効果モニタリング
海鳥の生態調査 ・ウトロ～岬の分布 ・生息状況、採食状況	生態調査 ・本調査 ・モニタリング	生態調査 ・追加調査 ・モニタリング	生態調査 － ・モニタリング
利用機会の拡大			
利用動向調査	予備アンケート調査	本格アンケート調査	本格アンケート調査
魅力的な利用形態	－	－	より好ましい利用形態の検討
各種海域利用者間の調整			
漁業、遊漁、シーカヤック等の状況把握	関係者ヒアリング 課題整理	実態調査 ケイマフリの保護・保全に向けた連携体制の構築	検討・調整
広報普及啓発			
海域利用の楽しみ方のPR	小冊子作成	ケイマフリの大切さを伝える パンフレットの活用 インターネットによる情報提供 ミニ出前講座の開催	観察会開催等